

## ふれあい懇談会会議録（令和6年度 大甕地区福祉委員会）

団体名 大甕地区福祉委員会

開催日 令和6年7月9日（火）

時 間 10時00分～11時30分

場 所 大甕生涯学習センター

参加者 団体関係者14名

市長、大甕生涯学習センター所長、総務部秘書課長、秘書課広報広聴係長、秘書課広報広聴係員

- 1 開会
- 2 福祉委員会会長あいさつ
- 3 市長挨拶
- 4 懇談
- 5 閉会挨拶

No.	発言者	発言内容	回答者	回答事項
1	委員	過去参加した介護教室は認知症の理解に役立ったが、具体的な対応方法を学べない点が残念に思えた。今後、自分たちが認知症になる可能性を考えると、被介護者の心構えについての講座も必要と感じている。	市長	介護サービスの充実が必要だと感じている。市の介護保険料と国の経費が半分ずつとなっている。これまでの方針は介護保険料の軽減だったが、サービスを充実させれば保険料も必然的に増えてくることを理解いただきたい。その仕組みについて理解を深めてもらうための講演会の開催も考えていきたい。また、介護期間を極力短くするためには、サロンや講演会の開催は有効だと思う。現在、ボランティアで行われているサロン活動は他とは異なる貴重な活動である。その開催に際しての経費、場所提供など、市のサポートが可能か検討していくが、市のサポートには限界があるのも事実だ。実際の介護は地域のつながりを活かし、皆で支え合う必要がある。地元で開催ただけると大変助かる。
2	委員	現在自分が親の介護をしているが、自分ができなくなった際、すぐに利用できるサービスがほしい。要介護認定などがないと利用できないことが多く、要介護認定を取得するにも時間がかかる。不測の事態で急に介護ができなくなった際、介護できる人がおらず、頼れるものがないのは不安である。		
3	委員	身内の介護を体験したことから、自分が介護を必要とし、家族に負担をかけることが怖くなった。そこで、健康維持や介護問題を話し合う場があると良いと思う。		
4	委員	認知症の増加防止のため、楽しみながら脳を刺激できるようなイベント（落語家の講演など）を市で開催してほしい。		
5	委員	北原地区では8月10日に認知症講座を開催予定で、体操も定期的実施している。今後は地域全体でこのような活動を開催してほしい。		
6	委員	夜間に救急車で運ばれる際、対応できる医師がいないため、相馬市の病院に運ばれることがある。市内の病院で対応できないだろうか。	市長	相馬地域では、6つの病院で輪番制を構築し救急患者の受け入れをしてきたが、現在、鹿島厚生病院と小野田病院での受け入れができず、全体の約4割程度を総合病院で受入れている。他に救急患者を受け入れられる病院がない場合、入院や手術が必要となる二次救急は、市の総合病院で対応できるように調整しているが、専門医が不在であったり、当直医が他の救急患者の対応をしたりしていると、受入れが困難となる場合もある。また救急車を使う際に、診断すると症状が軽い人もいる。そういった人たちが全員総合病院に行くと、業務が過重になってしまう。そこで、市内の他の病院と総合病院を症状に応じて使い分けていただくことにご協力いただきたい。

7	委員	歩道の雑草が手入れが行き届かず、地域住民がボランティアで草刈りを実施している。しかし、雑草が車道にはみ出し、車に触れる箇所もある。市道だけでなく、国道や県道に対しても同様の問題が発生しているため、管理者に対応を働きかけてほしい。	市長	歩道の雑草は、関係機関である相双建築事務所などに都度対応をお願いしている。特に相馬野馬追のようなイベント時期には、しっかり対応できるように働きかけている。市の関係課でもこの問題に注力しようと思う。国道や県道についても、同じように提言し、対応を求めるように努力を続けていく。
8	委員	市内に中高生向けの遊び場が不足しているように感じる。映画館や大型のショッピングモールがあれば、それらは子供たちの遊び場となり、同時に大人の雇用場所にも繋がる。市がそういった施設を設けることが望ましいと感じている。	市長	これまで、医療や保育園等の必需性の高い分野を強化してきた。今後は、行政だけでなく他の分野にも注力する必要があると考えている。スーパーマーケットや回転寿司店、ファストフード店、薬局などが市内にあることは、活気生まれる一因だと考えているので、すぐは難しいが、検討していきたい。
9	委員	家族の中には運転免許を返納した者がおり、みなタクを利用した経験がある。しかし、最善の利用方法が分からず、利用券を消費してしまった。もっと賢い券の使い方を習うような講習会があればありがたい。	市長	現在、みなタクは病院関連施設だけでなく、原町区内中心部地域で利用可能である。ただし、制度の周知が充分ではないため、利用方法や運賃について、一枚紙で理解できるようにしたい。また、病院と薬局の間での直接の移動については、他の市民にも同様のニーズがあるか調査したい。可能であれば、住民同士での乗り合わせやAIの活用などによって、より柔軟な利用が可能になるように取り組むつもり。それが達成されれば、乗り合わせた人には運賃が割引になるなどの利点を提供することも考えている。
10	委員	みなタクについて、対応範囲が主に医療施設だと聞いている。もし可能であれば、銀行など他の施設にも行けるようにしていただきたい。		
11	委員	病院への通院などでみなタクをよく利用しているが、病院から最寄りの薬局まで距離があるため、現状では家に帰って再度出発する必要があり、2回も利用しなければならない。病院から直接薬局へ移動できるような対応は可能ではないだろうか。		
12	委員	学校給食の評議員を務めていて、市による小学校までの給食無料化など、他の自治体では見られないような取り組みに感心している。運営がすでに行われている鹿島区を参考に、市全体でも自校給食からセンター給食への移行が計画されていると聞いている。ただし、給食センターの設立により、給食の質が落ちたり、学生への食育が不足したり、地産地消の原則が損なわれるようなことはないだろうか。給食センターで食中毒が発生した場合、全市の給食約3000食を準備できるのだろうか。その上、年中無休で稼働する施設となると、設備維持も困難ではないか。給食の質を維持しつつ、安心して利用できる新しい給食センターの設立をお願いしたい。	市長	給食センターについて、問題が発生したときは新設するセンターを加えて二つの給食センターを稼働させることで、どちらか一方が停止しても給食は継続供給できるようにしている。また、地産地消については、地元の野菜を大量に仕入れ、不足分を他地域から補う方法で、給食センターの導入によってより推進できると考えている。加えて、子供の数が減少するにつれて、各学校での人材確保が困難になってきている。こうした事情を踏まえ、給食センターを導入する必要がある。経費については、人口減少の問題が原発事故が大きく影響していると考えているため、国への支援要請も進めている状況である。
13	委員	全国植樹祭の際に雫地区で植樹を行った地域について、芝生などの手入れは確認しているが、現在活用されていないと感じている。何か活用法はないだろうか。	市長	現在、その地域は広場として管理している。これからも維持していきたい施設の一つである。市民活動の場として活用してもらいたいと思っており、利便性を考え、トイレも設置したが、どうしたらより利用してもらえるか、今後の対策を練っていく必要がある。
14	委員	スマートフォンやインターネットの勉強会の開催を望んでいる。家族から学ぶことが少なく、その使い方が難しい。	市長	今後、広報紙やその他のお知らせ等を電子化していく予定だ。市としては、可能な限り多くの市民にインターネットを利用してほしいと思っているため、勉強会の開催は検討していくつもりである。

※回答事項の記号「⇒」以降に書かれている内容は市が持ち帰りとした案件について、確認が取れた内容を追記したものです。